



2021 綾南中生の主張 ～ 学年団弁論大会を終えて ～

5月・6月と、「社会を明るくするために」というテーマの下、自分や友達、学校や家庭生活、地域社会、社会情勢等、幅広い分野に渡って振り返りながら、よりよい社会や集団づくり、自己の生き方等について考える取組を行っています。以下はその取組の一部です。

- 「全国中学生人権作文コンテスト入賞作文集」の精読及び感想文の作成
- 弁論作文の作成（大テーマ：「社会を明るくするために」）
- 学級弁論大会（代表者による発表）
- **学年団弁論大会（各学級代表2名、計10名による発表）**
5月26日（水）1年団、6月2日（火）2年団、6月3日（木）3年団
- 坂出地区中学生弁論大会（学校代表2名が参加）
- 人権標語の作成及び全校掲示（広報委員会の取組）

そのうち、先日の「学年団弁論大会」で感じられた子どもたちの成長の一部を紹介します。

1 テーマが多岐にわたって設定されていたこと

テーマ例：平和（戦争撲滅）、いじめ問題、児童虐待、家族、差別問題、ボランティア活動、ネット上の誹謗中傷、命の大切さ、思いやりの心、高齢者社会、障害者への接し方、自分の生き方、動物愛護、自己啓発、住みよい暮らし等々。

これらはほんの一部ですが、子どもたちは課題や問題を自分事として受け止めていることが伝わってきました。SNS等の利用が拡大し続け、不確実な情報が氾濫する中でも、真の問題点や課題を正しく見極めながらテーマ設定している子どもたちの成長している姿に驚きや喜びを感じました。



【弁論中の風景】

2 自分の考えや思いがしっかりと綴られていたこと

各弁士は、重みのあるテーマを取り上げ、その解決策や自分の思いを飾らない自分の言葉で綴っていました。

中学時代は「思春期」と呼ばれる多感で傷つきやすい時期です。しかし、多感だからこそ、物事への視野が広がり、考えが深まり、大人へと成長していく階段を着実に上っていく時期でもあります。中学生のこの時期に、「弁論大会」や「道徳の授業」等を通して、自分や他者の生き方を見つめ直す機会は極めて貴重だと感じました。



【感想を書くフロアの生徒】

3 自信をもって堂々と発表できていたこと

人前で話すのはとても勇気が必要なことです。しかも、それが自分自身のことをさらけ出すような内容だとなおさらです。しかし、各学級代表の弁士たちは、大勢のフロアにメッセージを届けようと、臆することなく発表することができました。

この2か月間の校内巡回では、しっかりと発表したり、話し合ったり、スピーチや暗唱をしたりしている姿が見られました。すなわち、普段の学校生活における自分を主張することの積み上げが、弁士たちの堂々と弁論する姿につながっているのだと感じました。

すばらしい弁論大会を踏まえ、今後、子どもたちに期待することは以下のことです。

- ◆ 物事には多面的な見方があることや、物事の受け止め方や対応の仕方は人それぞれであることを理解すること
- ◆ 人は一人で生きているのではなく、互いに支え合って生き、生かされていると実感すること
- ◆ 言葉や思いだけで終わらせず、実践力をもって日々生活すること 等々

子どもたちは集団生活、社会生活の中で、現状をしっかりと受け止めながら、視野やものの見方を着実に広げ、考えを深めています。また、保護者の皆様や教員等、大人との何気ない会話や大人の行動様式が、子どもたちの社会の一員としての資質を知らず知らずのうちに形成させていくものだとも思います。大人の考え方に一歩ずつ着実に近付いている子どもたちの成長を喜びつつ、引き続き健全なる成長を後押ししてまいりたいと考えています。